

長野県植物研究者伝 8

小泉 秀雄 抄伝

丸 山 利 雄

T. Maruyama : Biography of Mr. Hideo Koidzumi

長野県出身者ではないが、長野県内に勤務し、大正から昭和の初期に長野県内の各地の植物を調査し、長野県内の後輩の指導をした異色の指導者に小泉秀雄氏がある。

氏の履歴の概要は、次の通りである。

1885 (明治18) 年11月1日 山形県米沢市林泉寺町に生まる。父小泉清二、母せいの2男で、長男は後の京都大学教授小泉源一理学博士である。

1904 (明治37) 年 18才 3月東京府私立順天中学校卒業。4月盛岡高等農林学校農学科に入学。

1905 (明治38) 年 19才 家事の都合により盛岡高等農林学校退学、9月米沢市私立辰学館博物科教師となる。

1906 (明治39) 年 20才 11月山形県中川尋常高等小学校准指導。

1907 (明治40) 年 21才 10月山形県西庄尋常高等小学校准指導。この年文部省の試験検定により師範学校・中学校の博物科 (動物・生理衛生)、高等女学校の理科 (動物・生理衛生) の教員免許状取得。

1908 (明治41) 年 22才 2月東京府私立芝中学校教授嘱託。

1910 (明治43) 年 24才 12月文部省の試験検定により師範学校・中学校の博物科 (植物)、高等女学校の理科 (植物) の教員免許状取得。

1911 (明治44) 年 25才 6月北海道庁立上川中学校 (現旭川東高校) 教諭。

1920 (大正9) 年 34才 5月高知県立第3中学校教諭。この年6月長野県松本女子師範学校教諭に転任。

1924 (大正13) 年 38才 5月長野県史蹟名勝天然記念物調査委員、7月大雪山調査会調査委員。

1925 (大正14) 年 39才 松本高等学校講師兼任。

1929 (昭和4) 年 43才 日本植物学会に入会。

1933 (昭和8) 年 47才 7月共立女子薬学専門学校講師、後に教授となる。

1943 (昭和18) 年 57才 共立女子薬学専門学校薬草園植物栽培主任。

1945 (昭和20) 年 59才 1月18日上記学校現職のまま病没。

氏の北海道在任中の研究は、特に大雪山 (旭岳) に関するものが有名で、大雪山稜中には小泉岳・小泉平・小泉沢の地名も残されている。

なお大雪山の名称については、河野常吉氏 (河野齡蔵氏の兄) との論争がある。

また長野県在任中も大正10・14・15年、昭和2・3・4・7年などに北海道・北千島・樺太等の調査のため合せて100日以上も出張している。

長野県在任中の長野県内の調査は、殆んど県内各地に及び、その他関東・近畿等の地域にも調査のために出張し、それらの延日数は150日以上である。

長野県史蹟名勝天然記念物調査員として県に報告されたものは、次の通りである。

1925 (大正14) 年

保護すべき千曲山脈の遺存寒地帯——千曲山脈高
地帯の植物地理学的研究

珍種、二度栗に就いて (下伊那郡大鹿村)

珍種を産する巣宿及半過の岩鼻 (埴科郡坂城町・
上田市)

1926 (大正15) 年

日本南アルプス (赤石山系) の遺存寒地帯

木曾山口村の枝垂桜 (木曾郡山口村)

高遠公園の小彼岸桜 (上伊那郡高遠町) 八木貞
助委員と共著

伊那町小学校庭の白小彼岸桜 (伊那市)

松本市郊外里山辺の白枝垂彼岸桜 (松本市)

上伊那郡朝日村の二度栗 (辰野町)

1927 (昭和2) 年

保護すべき寒地植物帯の決定 (日本北アルプス・
中アルプス・南アルプス・八ヶ岳火山帯・関東山脈
・千曲山脈・浅間火山帯・四阿白根岩菅苗場の諸火
山群・戸隠妙高山帯の9区域に及ぶ)

ハクセンナズナの自生地 (日本中アルプス・南ア
ルプス)

上飯田村の二度栗 (飯田市)

木曾駒ヶ岳・御岳及木曾谷一帯の石南類

信州産ツツジ科の新品

珍しきツツジ類の自生地 (下伊那郡平谷村・根羽
村)

1929 (昭和4) 年

熱帯植物ミズスキの自生地 (南安曇郡穂高町)

稀品キソキイチゴの自生地 (木曽郡南木曽町・上松町)

木曽三岳村のヒガンザクラ (木曽郡三岳村)

木曽三岳村のトチノキ (木曽郡三岳村)

新種キソツクバネウツギ (木曽郡南木曽町)

新種ウスギタンポポ (長野市)

寄生植物ミヤマツチトリモチ (木曽郡大桑村)

木曽境峠の混交型遺存寒地帯 (木曽郡木祖村・南安曇郡安曇村)

新種キシクロソゴ (木曽郡木祖村・南安曇郡安曇村)

新変種オホバナカラフトバラの自生地 (長野市)

珍変種ミツバナウグイスカグラ (長野市)

稀品シロバナアブラギスの自生地 (長野市・上田市)

松代の二度栗 (長野市)

珍品シダレマツ (長野市)

美和村の円座松及美松 (上伊那郡長谷村)

珍変種シダレイテフ (長野市)

珍木シダレイテフ (上水内郡豊野町)

蓮如上人袈裟掛の大公孫樹 (長野市)

シダレイテフの大木 (長野市)

柿の原種なる山柿 (更埴市)

竜勝寺のヒガンザクラ (上伊那郡高遠町)

キクザキヤマブキの野生品 (木曽郡南木曽町・上伊那郡高遠町)

美篤村の一里ノ木 (新種ハハキヒノキ) (伊那市)

新野峠のウツギ類 (珍種・新種の集団) (下伊那郡阿南町)

新変種シトクツツジ (上伊那郡中川村)

小野公園のシダレヤマザクラ (上伊那郡辰野町)

里山辺のユキシダレヒガン (松本市)

オオシマザクラの原品 (南安曇郡豊科町)

珍種オンタケマメザクラ (木曽郡王滝村)

福島町城山の桜の珍種 (キシマメザクラ) その他 (木曽郡木曽福島町)

珍種キシヤマザクラ (木曽郡木曽福島町)

稀品シダレザクラ (シラユキシダレ) (伊那市)

新変種ミスズザクラ (伊那市)

珍しきヒトエヤエケヤマザクラ (駒ヶ根市)

飯島小学校のムレヤマザクラ並びにその変種 (上伊那郡飯島町)

1930 (昭和5) 年

飯山営林署庭のチノマメザクラ (飯山市)

西筑摩郡福島町附近ベニマンサクの分布北限地帯 (木曽郡木曽福島町)

上伊那郡富県村ヤエヤマツツジ並にホザキヤマツツジ (伊那市)

上伊那郡富県村のタマザキフジ (伊那市)

諏訪郡上諏訪町温泉寺のキレハイチョウ (諏訪市)

下高井郡野沢温泉のサンキザクラ (下高井郡野沢温泉村)

南安曇郡穂高町新変種アリアケツツジ (南安曇郡穂高町)

南安曇郡有明村シダレウコンザクラ (南安曇郡穂高町)

1932 (昭和7) 年

燕岩の遺存寒地帯 (下伊那郡大鹿村)

新変種シダレイヌザクラ (飯田市)

枝垂毛山桜 (飯田市)

クダザキヤマジノギク (飯田市)

桜塚円満坊の老彼岸桜並木 (下伊那郡松川町)

ミヤマトサミズキ (南安曇郡安曇村)

上高地温泉のミズスキ自生地 (南安曇郡安曇村)

栗尾山満願寺の大杉 (南安曇郡穂高町)

穂高神社前の松並木 (南安曇郡穂高町)

1933 (昭和8) 年

戸隠中社及び宝光社の桜樹 (上水内郡戸隠村)

北安曇郡青木湖附近の桜樹 (大町市)

富士里村の閑負桜 (上水内郡信濃町)

穂高神社社前の松並木 (後報, 南安曇郡穂高町)

藤沢村の珍種トリアシカエデ (上伊那郡高遠町)

上田神社のフタガタカエデ (上田市)

小菅神社の杉並木並に自然生杉 (飯山市)

瑞穂村小菅山の姫小松の自然林 (飯山市)

1934 (昭和9) 年

西条村の八房榎 (長野市)

珍種イナガヤ (下伊那郡下条村)

以上の外、氏の長野県在任中の研究をまとめたものに、次のようなものがある。

日本南アルプスの寒地植物誌 氏の種々の雑誌に発表の関係論文を横内斎氏がまとめたもの、1959年発行。氏は高山植物の語を用いず、寒地植物の語を用いている。

上伊那郡植物誌 1930年 上伊那教育会発行

飛騨山系南半部植物分布論

下伊那植物調査 1930年 下伊那教育会発行

実地適用 菊科植物検索表 1931年発行

氏の標本は東京の国立科学博物館に保存されているが、その数は約16万点を越えるといわれ、日本で

これ程の標本を作成した人は、故人では牧野富太郎博士と氏だけといわれている。その中には鮮苔類・地衣類の標本も多く含まれ、特に地衣類中甲斐駒ヶ岳産のイワタケモドキには氏の名を記念した学名 (*Umbilicaria Koidzumii* Yasuda) がつけられている。甲斐駒ヶ岳には、長野県在任中だけで大正10・11・13年と3回の調査を行っている。

以上の外、氏が長野県内で発見や命名した植物には、次のようなものがある。

チシマヒカゲノカズラ この植物は樺太・千島・カムチャッカ・シベリア・ヨーロッパ・北アメリカなどに分布するというが、日本国内では北海道と本州中部の高山にまれに産する。本州ではじめて分布を確認したのは、1923年仙丈岳での氏の調査である。

チシマツメクサ この植物は千島・樺太から北半球全般に分布するというが、日本では北海道と本州中部の高山にまれに分布し、本州では1921年氏が白馬岳で最初に分布を確認している。

ツクシコゴメグサ この植物は本州南部と九州に分布するというが、氏が下伊那郡根羽村で分布を確認し、これがこの植物の分布の北限とされている。

ミサヤマチャヒキ 諏訪で発見した氏の名を記念して本田正次氏が1926年 *Avena hideoi* Honda と命名したが、後大井次三郎氏が *Helictotrichon hideoi* Ohwi と改めた。長野県の特産である。

センジョウスゲ 1922年氏が仙丈岳で採集、大井氏によって1930年 *Carex hidewoi* Ohwi と命名されたが、後の研究によってこの植物はインド・中国西部・シベリア南部・朝鮮北部に分布する *Carex lehmannii* Drejer とわかり、それが仙丈岳に隔離分布しているものであることがわかった。

ヤツガタケタンポポ 1917年氏の兄小泉源一氏がハケ岳で採集した標本によって *Taraxacum yatsugatakense* H. Koidz. と命名した。

ウスギタンポポ 1923年長谷川五作氏が発見し、小泉氏が *Taraxacum shinanense* H. Koidz. と

命名した。初め長野市付近の分布と考えられたが、現在は本州中部の外、関東・奥羽地方の一部にも分布していることが知られている。

シロウマタンポポ 白馬岳産のタンポポで1933年に *Taraxacum shiroumense* H. Koidz. と発表されたが、その後の研究で、これはミヤマタンポポの変種とされている。

なお、ミヤマタンポポ (*T. alpicola* Kitam.) には小泉氏が1933年発表したヘラバタンポポ (*T. Kurohimense* H. Koidz.) も1934年発表のトガクシタンポポ (*T. togakushense* H. Koidz.) も合一されているが、最近の清水建美・岡崎純子両氏の研究によると、ミヤマタンポポとトガクシタンポポとはちがった分類群を構成するものと結論したい (本誌No15, P. 6 参照) としている。

また、長野県内産ではないが氏の命名したタンポポ属の植物には、次のようなものがある。

タカネタンポポ (一名ユウバリタンポポ) *Taraxacum yuparense* H. Koidz. この植物は北海道の石狩・日高地方の高山帯に分布する。

ツクシタンポポ *Taraxacum kiushianum* H. Koidz. この植物は四国・九州北部に分布する。

このようにタンポポ属の植物の命名があるので、大井次三郎著日本植物誌の日本植物命名者表には、次のように記載されている。

H. Koidzumi : H. Koidz. : Hideo Koidzumi, 1886 - 1945, Japan (*Taraxacum*) 小泉秀雄。

この生年1886は、氏の自筆の履歴書によれば、明治18年であるから1885が正しい。

参考文献

長野県史蹟名勝天然記念物調査報告 第1～4巻
根本莞爾編 日本植物総覧補遺
大井次三郎著 日本植物誌
清水敏一著 大雪山わが山小泉秀雄
長野県植物研究会誌 第11号 第15号
丸山利雄著 信濃の植物・秋津の生物

〔植物ニュース〕69. ミズハコベ *Callitriche verna* L.

信大教養部地理学担当の吉田隆彦氏が、1983年3月22日に、松本市開智2丁目の松電ストアー開智店裏の排水溝で、水生植物を採集され、筆者に同定を求められた。これは、アワゴケ科のミズハコベであった。筆者も3月31日、その地域の排水溝を調べて歩いたら、かなり広範囲に分布していることが判った。ただし、夏になると、環境衛生上毎週この附近

の排水溝を清掃するというので、当分目につかなくなるであろう。日本のミズハコベは *C. verna* L. に当てゝいるが、*Flora Europaea* 3 (1972) によると、この学名は *C. palustris* L. のシノニムになっていて、かなり変異に富むことが記述されている。外形の似ているミゾハコベでは葉脈が羽状に配置しているのに、このミズハコベでは、中肋が葉身基部の少し上で3つに分かれ、両側の支脈が中肋とほぼ平行に走るの、容易に区別できる。(豊国秀夫)